

和歌山県県土整備の概要

2025年度



熊野川河口大橋
国道42号新宮紀宝道路(新宮市)



和歌山県PRキャラクター
「きいちゃん」



韓国からの国際チャーター便
熊野白浜リゾート空港(白浜町)

2025年度 和歌山県県土整備の概要

目次

I. 県土整備の概要	
1. 和歌山県の地勢・気象	1
2. 和歌山県の人口の見通し	1
3. 県土整備の現状等	2
4. 令和7年度当初予算における県土整備部の重点施策	6
5. 和歌山県 県土整備部所管 事業予算の推移	6
6. 国土強靱化の取組と効果	7
II. 主要な取組	
1. 道路	
道路ネットワークの整備	8
防災・減災対策	8
老朽化対策の推進	9
交通安全対策	9
自転車利用環境の整備	9
2. 河川、砂防、下水道	
風水害、土砂災害対策	10
生活排水処理の向上	11
3. 都市、住宅	
「命を守る」住宅、建築物の耐震化促進	12
賑わいのある魅力的なまちづくり	12
4. 港湾、漁港、海岸、空港	
港湾、漁港、海岸の改良、整備	13
港湾の利用促進	14
熊野白浜リゾート空港（南紀白浜空港）の利用促進	14
5. 事業推進のための取組	15
6. 建設業の現状と担い手確保の取組	15
7. 生産性向上などの取組	15
III. 巻末資料	
1. 県土の主な出来事	16
2. 県土整備部の予算	19
3. 県土整備部の組織	20

I. 県土整備の概要

1. 和歌山県の地勢・気象

●面積

本県は本州紀伊半島の南西部にあって、北は大阪府、東は奈良県と三重県、南は熊野灘に接し、西は紀伊水道を挟んで徳島県と向かい合っています。東西約94km、南北約106kmに及び、総面積は4,724.65km²で、国土の1.25%を占めています。本県は古くから「紀(木)の国」と云われ、面積の大部分は紀伊山系を中心とする1,000m前後の山岳地帯で、高野山、那智山など古代から親しまれた山々が多くあります。

●河川

河川の多くが、これらの諸山脈に源を発し、流域を潤して紀州灘や熊野灘に注いでいます。

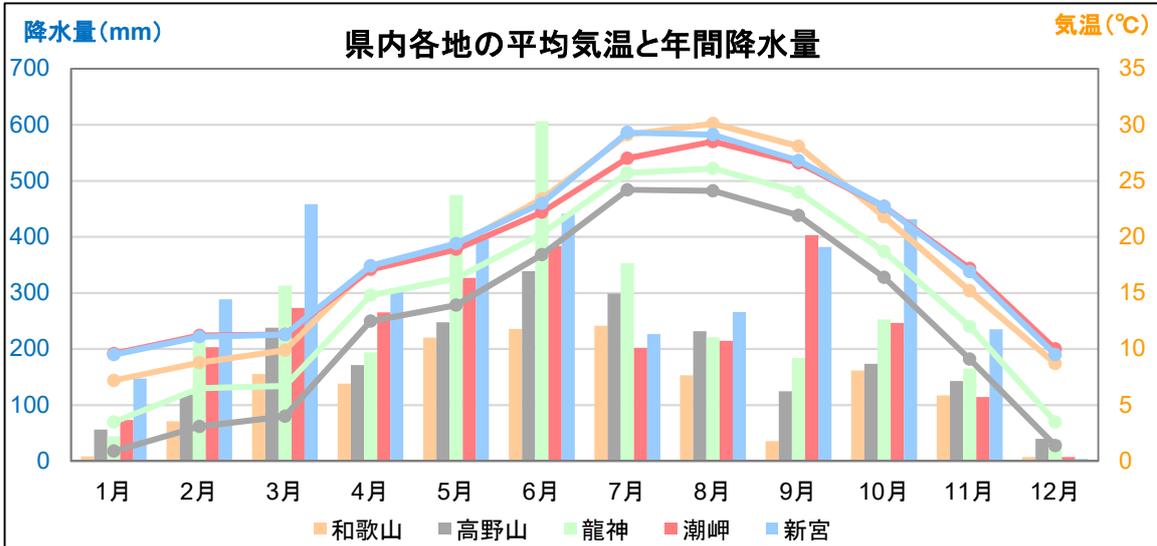
●海岸線

海岸線は、総延長約650kmに及びリアス式海岸で、とりわけ潮岬を中心とした県南部の海岸は、黒潮に洗われ景勝に富んでいます。

●気候

和歌山市など県北部は瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて天気や湿度が安定しており、降水量も少なくなっております。

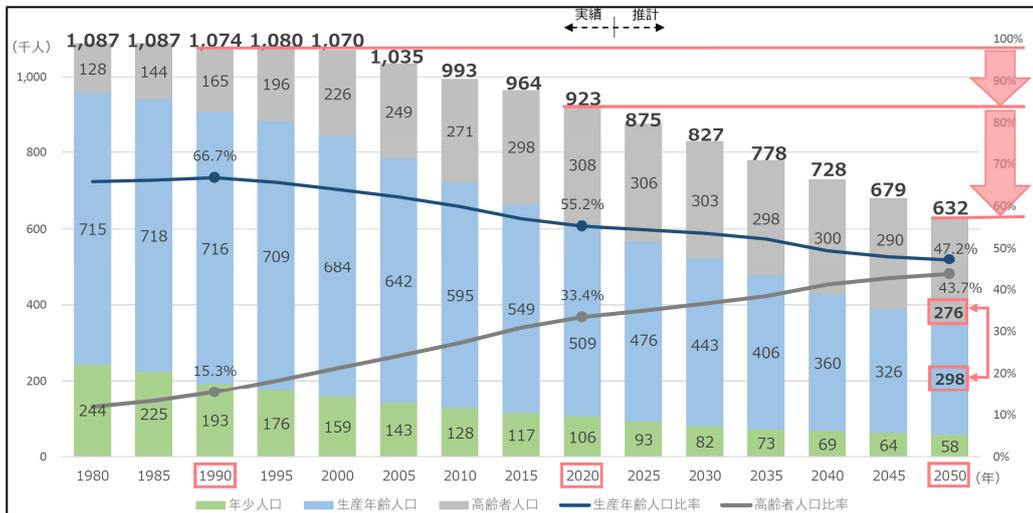
一方、県南部は太平洋式気候に属し、黒潮の影響を受け温暖で台風の影響を受けやすく、極めて降水量の多い地域もあります。また、日照時間は長く、夏は比較的涼しく冬は暖かい傾向がみられます。



2. 和歌山県の人口の見通し

本県における今後の人口減少のペースは、これまで経験したことのないスピードで進行し、2050年にはピーク時の約6割(現在の約7割)まで減少することが予測されています。

特に、生産年齢人口の減少が著しく、2050年には高齢者人口とほぼ同数まで縮小する見込みとなっており、建設業をはじめとする社会基盤整備の担い手の減少が予測されます。



3. 県土整備の現状等

道路

本県には、一般国道11路線、県道190路線、市町村道31,629路線の道路があり、改良率は、全国平均より低い状況です。

高速道路も、2015年紀の国わかやま国体の開催に合わせ整備率が大きく進展したものの、全国と比較すると未だ低い状況です。

和歌山県の道路の状況

		路線数	実延長(km)	改良率(%)
一般国道	国土交通省管理	3	344	100.0
	県管理	8	715	69.7
	計	11	1,059	79.5
県道	主要地方道	47	933	58.5
	一般県道	143	970	37.8
	計	190	1,903	48.0
一般国道+県道		201	2,962	59.3
市町村道		31,629	10,861	46.0
県管理道路(県管理国道+県道)		198	2,618	53.9
全国(一般国道+都道府県道)		13,794	186,089	78.0

出典:道路統計年報2024(2023.3.31時点)

高速道路整備率の推移

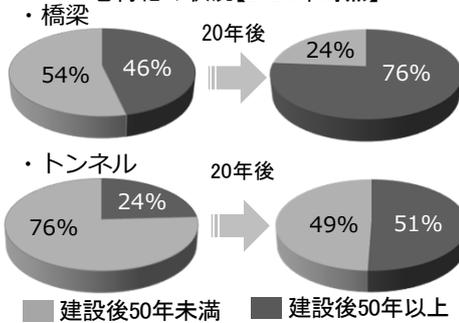


出典:全国高速道路建設協議会資料(2025.4.5時点)

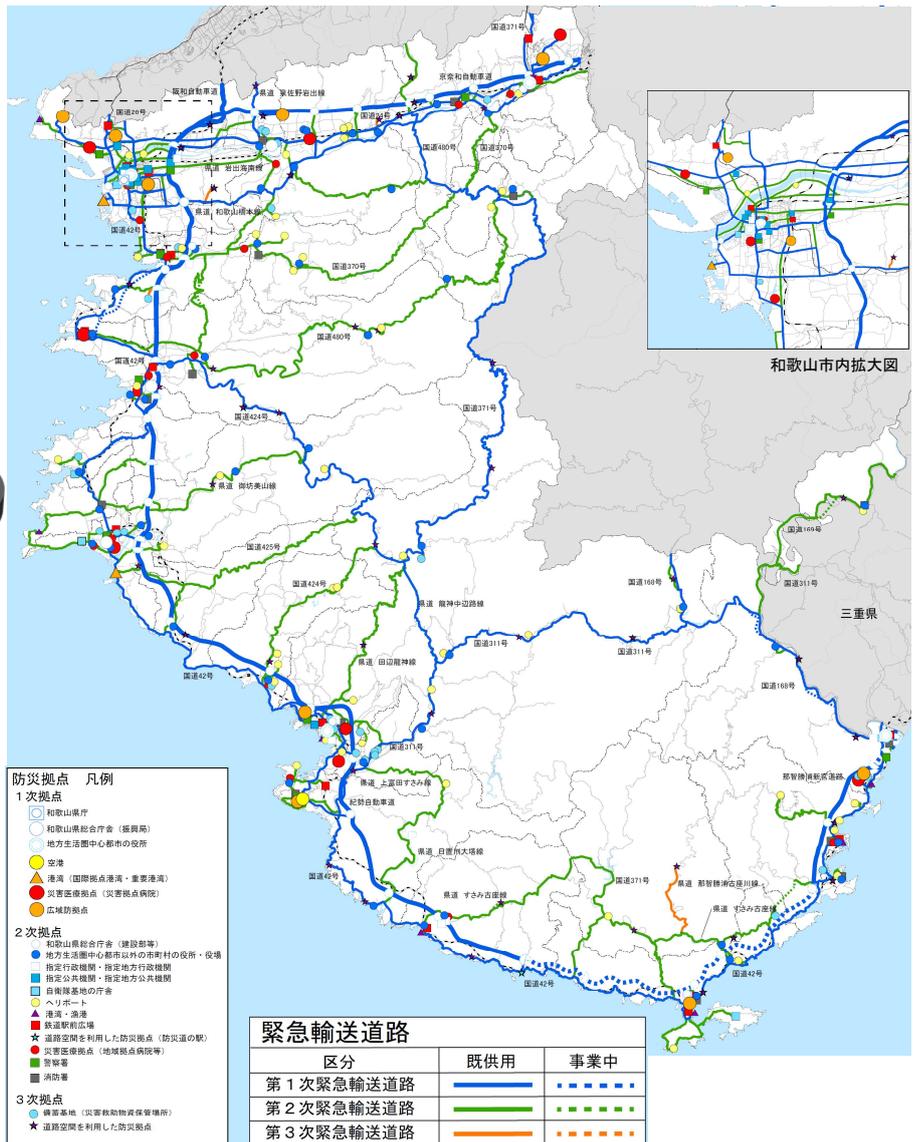
高度経済成長期に集中的に整備された橋梁、トンネルなどの重要な道路施設が、今後加速度的に老朽化していきます。

これらの施設の持続的な維持管理を実現するため、予防保全型メンテナンスへの本格転換に向けた対策を着実に進めていきます。

老朽化の状況【2025年時点】



和歌山県緊急輸送道路ネットワーク図 (2025.3時点)



国道371号 紀見隧道
1969年供用(建設後55年)

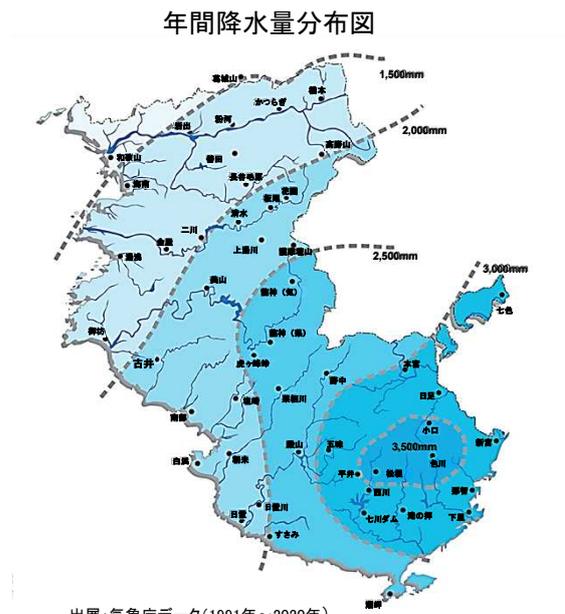


和歌山阪南線 松江横断歩道橋
1968年供用(建設後56年)

河川

本県には、2つの一級水系があります。大台ヶ原(奈良県吉野郡川上村)を水源として県北部を西流し、紀伊水道に注ぐ紀の川水系と、日本最多雨地帯の大峰山脈に源を発して県東部を南流し、熊野灘に注ぐ新宮川水系です。両水系には、134の一級河川と44の準用河川があります。一方、二級水系は85水系あり、317の二級河川と47の準用河川があります。さらに、単独水系には9の準用河川があり、準用河川は各水系合わせて100河川あります。一級河川は国と県が分担して管理しており、二級河川は県が、準用河川は市町村がそれぞれ管理しています。

年間降水量は、北部及び紀伊水道、紀州灘沿岸部では1,500~2,000mm程度、南部は2,000mm以上で山間部の南東斜面では3,500mmを超え、全国でも降水量の極めて多い地域となっています。



和歌山県の指定河川

種別	水系数	河川数	延長(km)
一級河川	国管理	2	4
	県管理	2	133
	小計	2※1	134※2
二級河川	85	317	1,422.0
合計	87	451	2,031.2
準用河川	27	100	100.8

※1: 国管理河川と県管理河川の水系が重複しているため
 ※2: 国管理4河川のうち3河川が県管理河川と重複しているため
 (重複河川: 貴志川、熊野川、市田川)

ダム諸元

ダム名	二川ダム	広川ダム	樺山ダム	切目川ダム	七川ダム
水系名	有田川	広川	日高川	切目川	古座川
河川名	有田川	広川	日高川	切目川	古座川
位置	有田川町二川	広川町下津木	日高川町初湯川	印南町高串	古座川町佐田
形式	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート
堤高	67.4 m	53.5 m	56.5 m	44.5 m	58.5 m
堤頂長	223 m	166 m	236 m	127 m	154 m
堤体積	209,250 m ³	110,000 m ³	265,000 m ³	67,400 m ³	96,240 m ³
集水面積	228.8 km ²	12.6 km ²	396.5 km ²	21.9 km ²	102.0 km ²
湛水面積	0.86 km ²	0.20 km ²	2.68 km ²	0.28 km ²	1.79 km ²
総貯水容量	30,100 千m ³	3,500 千m ³	49,000 千m ³	3,960 千m ³	30,800 千m ³
有効貯水容量	19,200 千m ³	3,250 千m ³	39,500 千m ³	3,410 千m ³	25,400 千m ³
治水容量	14,400 千m ³	2,550 千m ³	35,500 千m ³	2,400 千m ³	20,000 千m ³
不特定容量	— 千m ³	700 千m ³	4,000 千m ³	985 千m ³	— 千m ³
計画高水流量	3,000 m ³ /s	290 m ³ /s	4,500 m ³ /s	320 m ³ /s	1,380 m ³ /s
洪水調節量	900 m ³ /s	250 m ³ /s	1,640 m ³ /s	190 m ³ /s	1,060 m ³ /s
河口からの距離	38 km	12 km	55 km	23 km	27 km
管理開始年度	1966	1975	1989	2015	1957
目的	F・P	F・N	F・N・P	F・N・W	F・P

F: 洪水調節 N: 流水の正常な機能の維持 W: 上水道 P: 発電



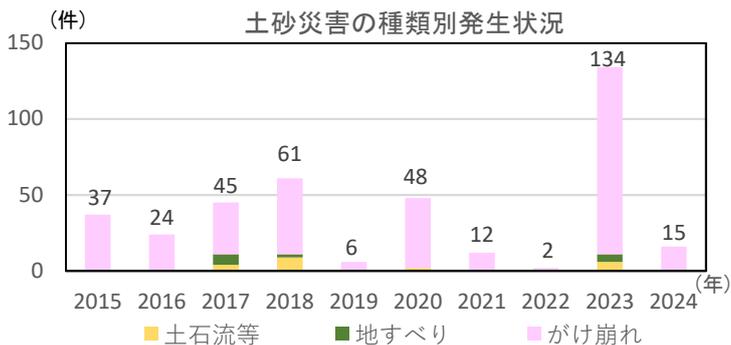
←日本一短い川 ぶつぶつ川(2008年10月21日 二級河川指定)

那智勝浦町の粉白地区を流れるぶつぶつ川は、飲めるほど良質な清水が沸々と湧き出る泉が、さらさらと流れる小川で、その長さはわずか13.5mしかありません。川底からぶつぶつと湧き出てくる様子からぶつぶつ川と呼ばれています。

砂防

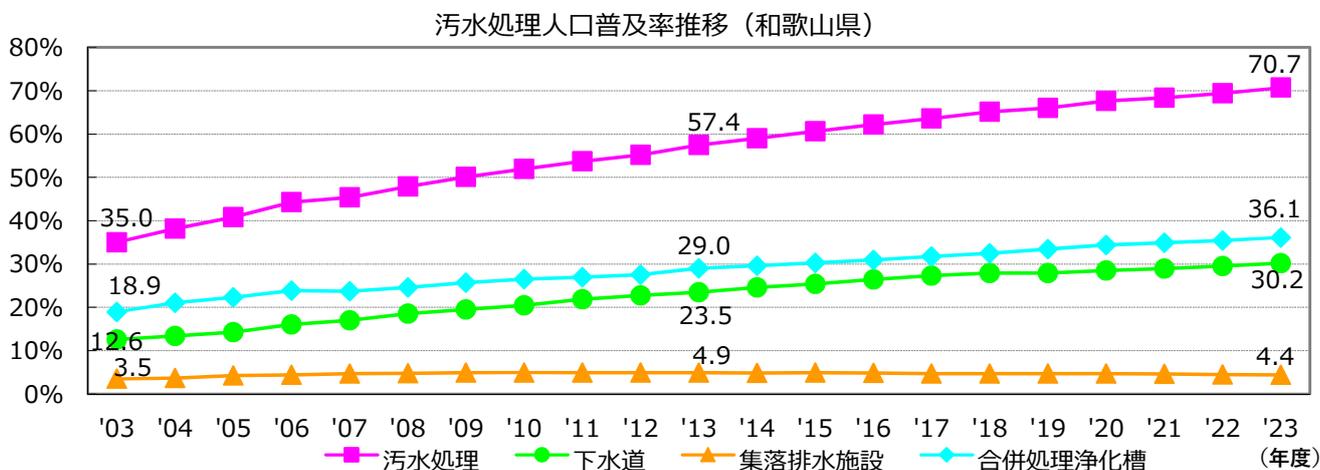
本県は県土の約80%が急峻で脆弱な山地におおわれている上に、全国有数の多雨地帯に位置することから、土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害が毎年のように発生しています。

このため、県では犠牲者ゼロを目指して、ソフト対策とハード対策が一体となった土砂災害対策を進めています。



汚水処理

下水道、集落排水施設（農業集落排水、林業集落排水、漁業集落排水）及び合併処理浄化槽のそれぞれの特長を活かした効率的、効果的な汚水処理施設の整備を推進しています。



都市公園

都市公園は、人々のレクリエーションの空間となるほか、都市の防災性の向上など様々な機能を持ち、快適で安全な生活を実現する上で必要不可欠なものです。都市の緑とオープンスペースの保全、創出からも、総合的かつ計画的に整備する必要があります。

県土整備部では7箇所の都市公園と3箇所の公園施設を維持、管理しています。

●都市公園の機能

- ・都市環境維持、改善の機能（気温の緩和、大気汚染の浄化）
- ・防災機能（避難場所、延焼防止等）
- ・景観形成機能（都市景観の形成等）
- ・健康、レクリエーション機能（運動、休養、環境学習等の場）

県土整備部管理の公園施設

公園施設名	所在地	供用面積	供用開始
秋葉山公園県民水泳場	和歌山市	2.65ha	2013.9.1
県営相撲競技場	和歌山市	0.33ha	2013.4.1
県立橋本体育館	橋本市	1.72ha	1999.9.13

県土整備部管理の都市公園

公園名	所在地	供用面積	公園種別	供用開始	主要公園施設
紀三井寺公園	和歌山市	17.66ha	運動公園	1964.4.1	陸上競技場、野球場、球技場、テニスコート、登はん場
和歌公園	和歌山市	43.66ha	風致公園	1895.12.28	健康館、万葉館、野外ステージ、万葉の小路、観海閣
河西緩衝緑地河西公園	和歌山市	31.49ha	緩衝緑地	1974.7.1	プール、多目的グラウンド、テニスコート
河西緩衝緑地湊緑地	和歌山市	2.95ha	緩衝緑地	1987.6.1	テニスコート、ソフトボール場
河西緩衝緑地松江緑地	和歌山市	6.20ha	緩衝緑地	1987.6.1	テニスコート
河西緩衝緑地西松江緑地	和歌山市	6.17ha	緩衝緑地	1993.4.1	体育館、野球場、サッカー場
河西緩衝緑地東松江緑地	和歌山市	5.62ha	緩衝緑地	2005.4.1	中央広場、みんなの原っぱ

港湾・漁港

海岸線約650kmに面している本県には、国際拠点港湾の和歌山下津港、重要港湾の日高港のほか、新宮港など13の地方港湾があり、人流面、物流面において海の玄関口として重要な役割を果たしています。地方港湾の中で由良港と勝浦港については、避難港にも指定されています。

本県ではこれらの港湾を活用し、クルーズ客船の誘致を行っています。県内におけるクルーズ客船の寄港回数は、新型コロナウイルス感染症の流行、拡大を受け、2020年度にはクルーズ客船の運航休止が相次いだものの、官民連携の継続的な誘致活動により、2023年度には過去最高の22隻、2024年度は13隻が和歌山県に寄港しました。

クルーズ客船の寄港は港を中心とした地域の賑わいを創出し、また地域経済を刺激する効果が大きいため、市町村及び関係団体と協力し、安全面を重視した受入体制の構築を重視しつつ、従来の制度を拡充した「クルーズ客船誘致助成制度」を活用し、引き続き誘致に取り組んでいます。

港湾の種類と数

	全国	和歌山県	備考
港湾数	932	15	
国際戦略港湾	5	0	
国際拠点港湾	18	1	和歌山下津港
重要港湾	102	1	日高港
地方港湾	807	13	文里港、湯浅広港他
(うち特定地域振興重要港湾)	(13)	(1)	新宮港
(うち避難港)	(35)	(2)	由良港、勝浦港

(2025年4月現在)

クルーズ客船の寄港実績



また、94の漁港(内、県管理漁港7漁港)があり、流通拠点漁港が5漁港、生産拠点漁港が15漁港があります。その中で、阿尾漁港と有田漁港については避難漁港として位置付けられています。

空港

熊野白浜リゾート空港(南紀白浜空港)は、和歌山県の空の玄関口として1968年に開港して以来、紀南地方を中心に産業、経済、文化の振興等、アクセス拠点として大きな役割を果たしています。

新たに完成した国際線ターミナルビルを活用し、2023年度にはベトナムや韓国からの国際チャーター便の受入れを行うとともに、2024年1月には「熊野白浜リゾート空港」と愛称を設定することで国内外からの多くの利用促進を図っています。

2024年度の利用者数は、過去最高を記録した2022年度の231,365人を更新する235,543人となりました。

年度別 搭乗者数・平均搭乗率の推移(2015年度～)



熊野白浜リゾート空港の概要

告示面積	741,000㎡
標高	89.4m
運用時間	8時30分から20時(11時間30分)
滑走路	長さ2,000m×幅45m (2000年9月延長供用開始)
エプロン	ジェット機用 3バース 小型機用 5バース
就航路線	熊野白浜リゾート空港⇄羽田空港 (1日3往復) 日本航空 B737-800 (165席)
駐車場	229台(有料) 315台(無料)
アクセス	JR白浜駅からバスで約20分 タクシーで約10分

4. 令和7年度当初予算における県土整備部の重点施策

防災・減災、県土の強靱化

【強靱で信頼性の高い道路ネットワークの構築】

能登半島地震の教訓を踏まえ、南海トラフ地震等の大規模災害に備えるため、半島防災の観点を新たに加え、道路ネットワークの強化や防災・減災対策を推進

【流域治水対策の推進】

気候変動による水害や土砂災害の激甚化、頻発化に対応するため、流域全体のあらゆる関係者が協働してハード、ソフト事業に一体的に取り組む「流域治水」を推進

【公共土木施設の老朽化対策】

橋梁やトンネル、河川、港湾施設など、今後急速に老朽化する社会インフラについて、点検、修繕を進めるとともに、長寿命化計画に基づく予防保全型の維持管理を推進

【住宅耐震化促進】

大規模地震発生時の住宅倒壊等による人的被害を軽減するため、住宅の耐震診断や設計、改修、津波避難困難地域から移転する際の住宅の除却等に対する助成を実施するとともに、耐震診断実施済みの方への個別相談や補強計画の提案等を支援

【津波から“逃げ切る！”ための堤防等の整備】

東海・東南海・南海3連動地震の津波避難困難地域における居住者の避難時間を確保するとともに、経済被害を抑え、早期の復旧・復興につなげるための対策として、港湾、漁港の防波堤等の改良、整備を実施

※半島防災について

・和歌山県が位置する紀伊半島をはじめ、半島地域は三方を海に囲まれ、急峻な傾斜地が多く、その地理的な特徴から災害が発生した際に速やかな支援が困難となる可能性が高くなっています。
 ・「半島防災」とは、このような半島地域における地理的特性を踏まえた防災対策です。

観光産業の強化

【熊野白浜リゾート空港利用促進】

羽田との4往復8便化や国際チャーター便の誘致等を行うとともに、滑走路延伸に向けた準備を促進

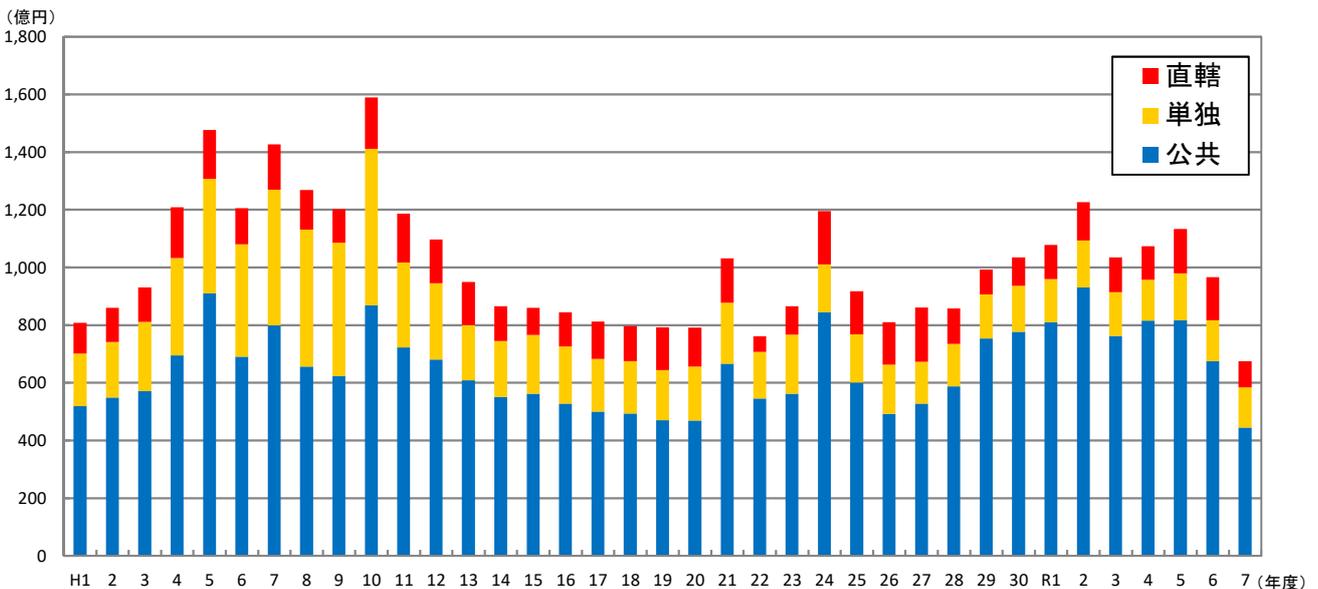
住みやすい、住みたいまちづくり

【空き家対策の促進】

県、市町村、学識経験者等が連携し、技術的な基づくりや所有者等に対して相談会やセミナーの開催、専門家による相談窓口の設置など空き家等への対策を総合的に推進

5. 和歌山県 県土整備部所管 事業予算の推移

【県土整備部関係の投資的事業費及び維持修繕事業費の推移】



※R7については当初予算額。R6以前については補正予算含む。

※災害除く。市町村への補助金含む。

6. 国土強靱化の取組と効果

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」（2018～2020）や、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」（2021～2025）などを活用し、県内各地において対策が着実に進み、その整備効果が確実に現れています。

【道路ネットワークの強化】

- 事業箇所
国道42号新宮紀宝道路 熊野川河口大橋（新宮市）
- 事業の概要
南海トラフ地震などの大規模災害時における通行機能確保や、医療機関への救急搬送時間の短縮を図るため、高速道路ネットワークを整備
- 効果
想定津波高より高い位置に道路を整備することで、災害時における通行機能を確保



対策前



対策後

【流域治水対策】

- 事業箇所
住吉川（一級河川紀の川の支川）（岩出市）
- 事業の概要
治水安全度の向上を図るため、紀の川合流点付近から3,650m区間において、河道拡幅や河床掘削等により流下断面を確保
- 効果
住吉川流域では、1995年7月出水で29戸の床下浸水被害があったが、河川改修の効果により、同規模の雨量を記録した2023年6月の豪雨では浸水被害を防止



対策前



対策後

【砂防関係施設の長寿命化対策】

- 事業箇所
米の郷谷川（紀の川市）
- 事業の概要
流木捕捉機能の強化を図るため、1971年に整備された不透過型砂防堰堤の本体の損傷に対する補修、補強を行うとともに、砂防堰堤の水通し部を切り下げ、透過型鋼製砂防施設を設置
- 効果
2023年6月の豪雨では、流木対策施設が流木を捕捉し、下流の人家、市道、河川、橋梁等への被害を未然に防止



対策前



対策後

【港湾における津波対策】

- 事業箇所
由良港（由良町）
- 事業の概要
3連動地震による津波に対する浸水被害を軽減するとともに、由良港内に避難水域を確保するため、防波堤（北350m、南100m）を新規に整備
- 効果
防波堤（北）350m整備のうち約100mが早期に概成したことにより、津波による背後地への浸水被害、人的被害の軽減が図られるとともに由良港内の静穏度が向上。また、台風等の荒天時において、船舶の安全な避難が可能となる水域が拡大



対策前



対策後

一方、近い将来の発生が予測される南海トラフ地震や、気候変動に伴い激甚化、頻発化する気象災害に対する対策は、未だ道半ばとなっています。

こうした中、能登半島の地震とその後的大雨による災害の教訓を踏まえ、半島地域の発展と安全・安心の前提となる「半島防災」と「複合災害への備え」の観点を新たに加え、道路ネットワークの強化、港湾及び漁港の耐震岸壁等の整備、流域全体で水災害を軽減させる流域治水の推進等を進める必要があります。

県としては、「国土強靱化実施中期計画」に基づき、引き続き防災・減災、国土強靱化に向け取り組んでいきます。

II. 主要な取組

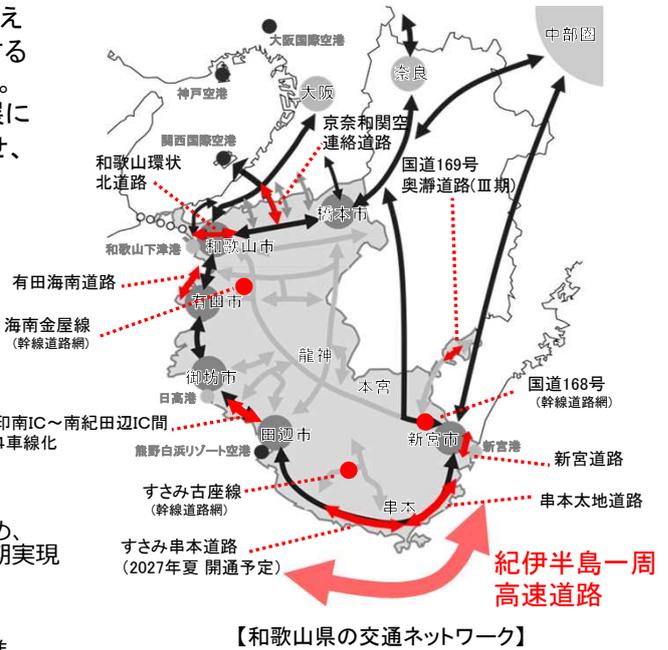
1. 道路

道路ネットワークの整備

南海トラフ地震や激甚化、頻発化する豪雨災害への備えとして、また、企業立地や産業振興など地域を活性化するため、高速道路ネットワーク等の整備を推進しています。
また、「ひと」、「もの」の流れを活性化し県内外の発展に寄与するため、高速道路ネットワーク等の整備に合わせ、幹線道路網や都市内道路等の整備を行っています。

- 紀伊半島一周高速道路
 - ・ 国による整備
すさみ串本道路の2027年夏開通に向け工事を推進
串本太地道路、新宮道路の用地取得や工事を推進
 - ・ 西日本高速道路(株)による整備
印南IC～南紀田辺IC間の4車線化の工事を推進
- 国直轄道路
国道42号有田海南道路、国道169号奥瀬道路(Ⅲ期)の工事を推進
- 高規格道路(調査中区間)
京奈和自動車道などの整備効果をさらに波及させるため、「和歌山環状北道路」や「京奈和関空連絡道路」の早期実現に向けた取組を推進
- 県管理道路
国道168号、海南金屋線、すさみ古座線等の工事を推進

防災・減災、県土の強靱化



防災・減災対策

南海トラフ地震等の大規模災害時における緊急輸送道路等の通行を確保するため、橋梁の耐震化や道路法面強化、無電柱化を推進しています。

防災・減災、県土の強靱化

【橋梁の耐震化】

- 国道370号福井橋(第二次緊急輸送道路)
 - ・ 落橋防止装置の設置による橋梁耐震化を行うことで、災害時の通行止めリスクを軽減



【道路法面強化】

- 国道168号(第一次緊急輸送道路)
 - ・ コンクリートにより道路法面を保護することで、豪雨等による通行止めリスクを軽減



【無電柱化】

- 粉河加太線(第一次緊急輸送道路)
 - ・ 電線を地下に埋設し無電柱化することで、台風等による電柱倒壊に伴う通行止めリスクを軽減



老朽化対策の推進

防災・減災、県土の強靱化

高度経済成長期に集中的に整備されたインフラが今後加速度的に老朽化するなか、平常時はもとより災害時にも本来の機能が発揮できるよう、老朽化対策を推進しています。

 <p>対策前</p>	 <p>対策後</p>	<p>【橋梁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○那智大橋（那智山勝浦線） ・塗装の劣化により腐食が進行し鋼材の断面が減少 →あて板による補修工事を行い、橋梁の機能を確保
 <p>対策前</p>	 <p>対策後</p> <p>導水樋による湧水の集約</p>	<p>【トンネル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○池田トンネル（泉佐野野田線） ・トンネル湧水が覆工壁面を伝い拡散 →導水樋により湧水を集約し排水することで、周辺の設備等に対する影響を低減
 <p>対策前</p>	 <p>対策後</p>	<p>【道路付属物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○松江第2横断歩道橋（和歌山阪南線） ・塗装の劣化により、浮きや剥がれが発生 →塗替塗装により防食機能を回復

交通安全対策

住みやすい、住みたいまちづくり

子どもや高齢者が安心して生活できるよう、歩道整備を進めるとともに、通学路の合同点検において抽出した要対策箇所や、死傷事故が多い箇所における安全対策を進めるなど、道路交通の安全性向上に取り組んでいます。

【歩道整備】

- 新和歌浦梅原線（和歌山市西浜～舟津町四丁目）
- 上富田南部線（田辺市下三栖） など



上富田南部線（田辺市下三栖）

自転車利用環境の整備

観光産業の強化

地域の魅力を楽しみながらの観光や健康づくりを促進するため、利便性や安全性を備えた自転車利用環境の整備に取り組んでいます。

【サイクリングロードの整備】

- WAKAYAMA800
全長約800kmの「川・山・海」の3つのサイクリングロード。紀の川の河川敷を利用した専用道路化を進めています。
- 太平洋岸自転車道（ナショナルサイクリングルート）
千葉県銚子市から和歌山市に至る延長1,487kmの自転車道。矢羽根型路面表示の設置など、利用環境の向上に取り組んでいます。



【まちなかの自転車通行空間整備】

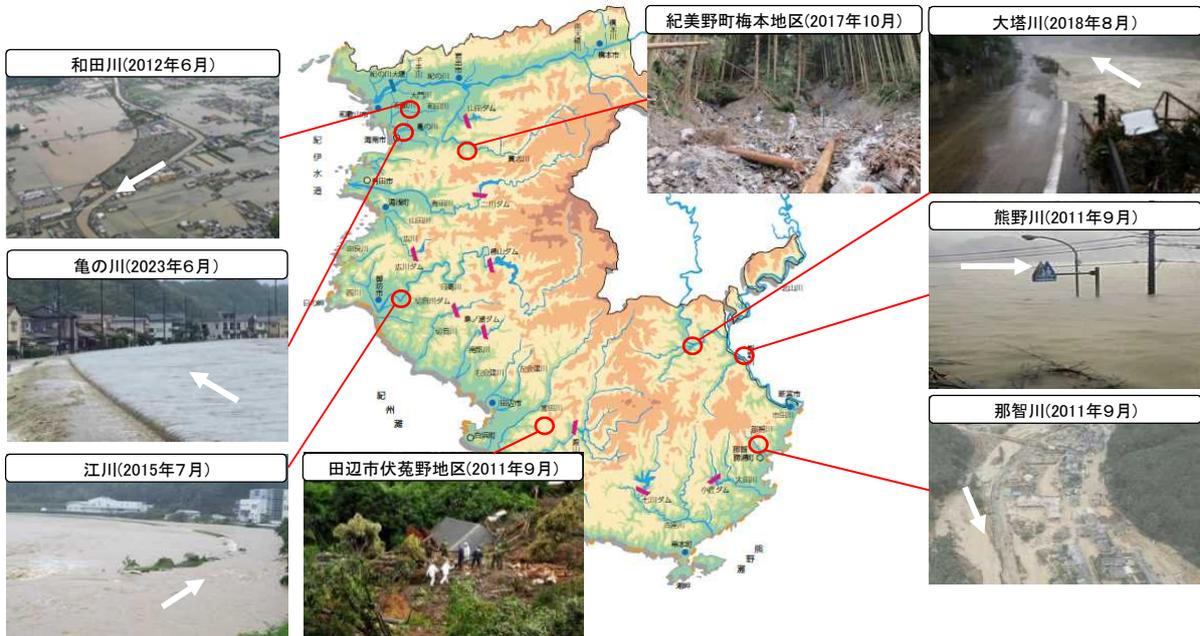
市街地において、自転車の通行位置を明確にし、歩行者と自転車の安全性を高めるため、矢羽根型路面表示等の整備を進めています。

2. 河川、砂防、下水道

風水害、土砂災害対策

防災・減災、県土の強靱化

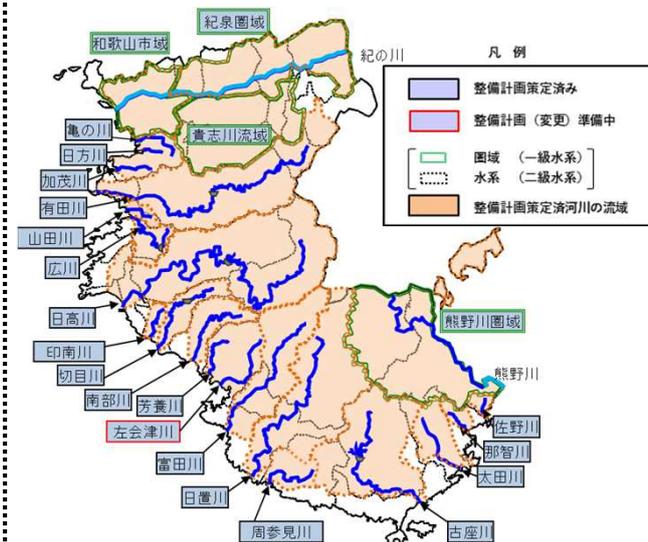
【近年の主な災害】 台風や豪雨等により、県内各地で浸水被害や土砂災害が発生しています。



【河川の整備】

浸水被害の軽減に向け、河川整備計画に基づき七瀬川や熊野川などで河道拡幅や護岸整備などを進めています。

河川整備計画は、19水系4圏域で策定済みであり、流域面積の約9割※に及んでいます。



※流域面積カバー率 = $\frac{\text{整備計画策定面積}}{\text{流域面積(一級河川・二級河川)}}$

河川整備計画策定状況(2025年4月時点)



七瀬川(河道拡幅)整備状況



熊野川(輪中堤)整備状況

【流域治水の推進】

気候変動を踏まえ、流域のあらゆる関係者で行う水災害対策「流域治水」に取り組んでおり、20水系で「流域治水プロジェクト」を策定しています。各関係機関との連携をより強固にして、治水対策をさらに加速化しています。



「流域治水」のイメージ

【災害復旧】

台風や豪雨により、公共土木施設が被災した場合、国の災害復旧事業を活用し、速やかな復旧を行っています。



災害復旧助成事業によって復旧した那智川(2011年発生災害)

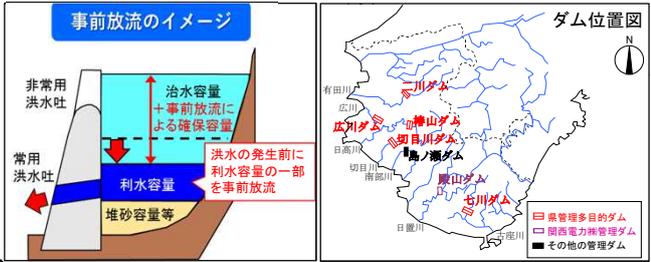
風水害、土砂災害対策

【県内ダムの事前放流】

洪水被害の軽減を図るため、県内7つすべてのダムにおいて事前放流を運用しています。

<事前放流運用ダム>

○2012年6月～(県管理) 二川ダム、椿山ダム、七川ダム、(関西電力(株)管理) 殿山ダム
○2021年6月～(県管理) 広川ダム、切目川ダム、(南紀用土土地改良区管理) 島ノ瀬ダム
事前放流：異常洪水が予想される場合にあらかじめ可能な限り水位を低下させ、水を貯める容量を確保する。



【土砂災害防止施設の整備】

防災拠点や避難場所のほか、老人ホームなどの要配慮者利用施設を守るため、砂防堰堤等の施設整備を重点的に実施しています。



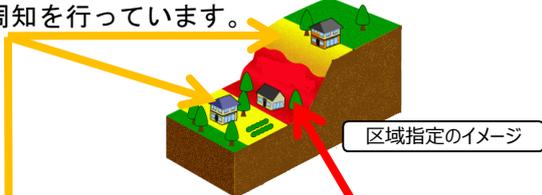
砂防堰堤整備状況
(妙見谷川:日高川町)



がけ崩れ対策状況
(六土谷地区:和歌山市)

【土砂災害警戒区域等の周知】

土砂災害のおそれのある区域について、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等に指定するとともに、周知を行っています。



土砂災害警戒区域（イエロー）

【土砂災害のおそれのある区域】
・市町村地域防災計画への記載
・警戒避難体制の整備
・ハザードマップの作成 等

土砂災害特別警戒区域（レッド）

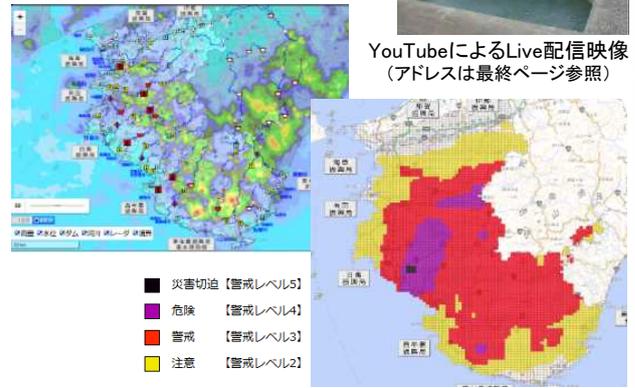
【建物破壊され、住民に大きな被害が生じるおそれのある区域】
・建築物の構造規制
・特定の開発行為に対する許可制
・建築物の移転 等

防災・減災、県土の強靭化

【河川水位等の防災情報の提供】

迅速な避難行動の支援として、県HP及びNHKやテレビ和歌山のデータ放送では、河川水位、雨量、土砂災害警戒情報、気象情報など、リアルタイムの情報を提供することができます。

また、YouTubeでは河川の状況をLive配信しています。



県HP(和歌山県河川/雨量防災情報)

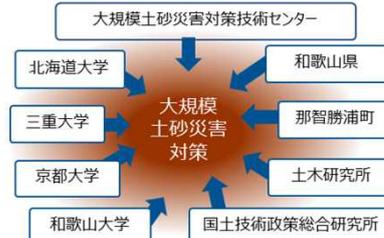
【土砂災害に関する研究・啓発の推進】

那智勝浦町にある和歌山県土砂災害啓発センターでは、大規模土砂災害対策技術センターなどと連携し、土砂災害に関する研究活動を進めるとともに、土砂災害に関する啓発活動や情報発信を行っています。



防災学習の様子

大規模土砂災害対策研究機構



生活排水処理の向上

本県の汚水処理人口普及率は2023年度末で70.7%と、全国平均の93.3%に比べて低く、下水道や合併処理浄化槽等それぞれの長を生かした効率的、効果的な汚水処理施設の整備を促進しています。

【下水道の整備推進】

流域下水道事業として、伊都、那賀浄化センターの整備を推進するとともに市町村が実施する公共下水道事業を促進しています。

【合併処理浄化槽の整備促進】

下水道等整備区域以外では、合併処理浄化槽の整備を促進します。特に、合併処理浄化槽への転換については、補助メニューの拡充を図り、整備を促進しています。

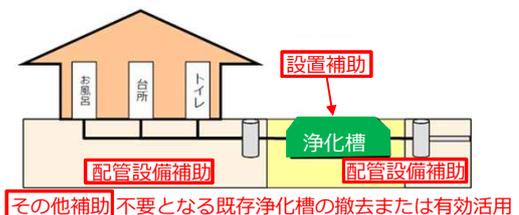
住みやすい、住みたいまちづくり



伊都浄化センター



那賀浄化センター



3. 都市、住宅

「命を守る」住宅、建築物の耐震化促進

防災・減災、県土の強靱化

【住宅の耐震化】 補助対象 木造：2000年5月31日以前に着工された住宅
非木造：1981年5月31日以前に着工された住宅

耐震診断（2004年度～） 【木造】耐震診断士を派遣し、無料で診断を実施
【非木造】耐震診断費の一部を補助

補強設計または現地建替設計（2009年度～）
【木造・非木造】耐震補強設計費の一部を補助

耐震改修または現地建替工事（2004年度～）
【木造・非木造】耐震改修費の一部を補助

耐震改修サポート事業（2009年度～）
【木造】耐震改修の専門家を無料で派遣し、各種相談や改修プランの提案等を実施

耐震ベッド、耐震シェルター補助（2015年度～）
【木造】設置費用の一部を補助

補強設計と耐震改修の総合的な支援 【木造・非木造】（2018年度～）
補強設計と改修費の全部または一部を補助
住民ニーズに応じた支援を実施
・一般改修型 ※現地建替も対象
・避難重視型
・1階改修型（2025年度～）

地震津波対策型移転 【木造・非木造】
地域内：（2021年度～） 地域外：（2025年度～）
除却費用や津波避難困難地域外への建替費用の一部を補助

【沿道建築物の耐震化】
緊急輸送道路沿道建築物の耐震診断を義務化、対象となる旧耐震建築物の耐震化の支援を実施しています。

耐震診断（2021年度～）
補助率：10/10

耐震設計（2021年度～）
補助率：5/12

耐震改修（2021年度～）
補助率：11/30（5,500万円上限）
※建築物の除去及び建替を含む

賑わいのある魅力的なまちづくり

住みやすい、住みたいまちづくり

【歴史まちづくりの取組】

地域の歴史や文化遺産などを保全、活用したまちづくりを推進するため、市町村が実施する「歴史的風致維持向上計画」の策定を支援しています。また、県においても、和歌公園「観海閣」の復元的整備を行い、歴史まちづくりを促進しています。

【良好な景観の保全と形成】

地域特性に応じた景観形成基準や届出の対象となる行為を定め、景観の誘導を行うとともに、予防保全型の景観まちづくり、市町村の景観計画策定の支援など、和歌山県らしい良好な景観形成を推進しています。

また、地域住民による景観に関するルールづくりや、良好な景観資源の推薦、登録を促進することで、住民参画の景観づくりを推進しています。

【県営住宅の建替・改善】

長寿化計画に基づく建替及び改善により、安全性、居住性の向上を図り、低廉で良好な県営住宅の提供を行っています。

- 建替：2024年5月、串本町に津波避難ビル機能を有する県営住宅が竣工。また、御坊市の下富安団地建替設計に着手。
- 改善：外壁改修工事、防水改修工事、エレベーターリニューアル、共用部照明LED改修を実施。

【空き家対策】

県、市町村、学識経験者等で組織する和歌山県空家等対策推進協議会を設立し、危険性のある空き家に対処するための技術的な基準づくりや、空き家発生予防の観点から所有者に対して相談会やセミナーの開催、また専門家による相談窓口の設置など空き家の状態に応じた対策を総合的に推進しています。

【危険な盛土等の対策】

宅地や農地、森林等の土地の用途にかかわらず発生し得る危険な盛土等による災害から県民の生命、財産を守るため、2025年5月から盛土規制法の運用を開始し、県内に隙間のない規制を行い、災害の防止に取り組んでいます。

【木造公共建築物の整備促進】

和歌山県木材利用方針に基づき、低層公共建築物は原則木造とし、ドクターヘリ格納庫や障害児者サポートセンター屋内プールでは、紀州材の無垢材を使用した屋根架構により大空間を実現するなど、木造化を積極的に推進しています。

併せて、現場見学会の開催や木造化事例等の情報を提供することにより、市町村建築物の木造化促進に取り組んでいます。



和歌公園「観海閣」の復元的整備
（大正頃の観海閣：和歌の浦学術調査報告書より）



県営住宅串本団地（2024年5月竣工）



空き家率の推移
（2023年住宅・土地統計調査（総務省））



ドクターヘリ格納庫



障害児者サポートセンター屋内プール

4. 港湾、漁港、海岸、空港

港湾、漁港、海岸の改良、整備

防災・減災、県土の強靱化

本県には、15の港湾があり、国際拠点港湾の和歌山下津港、重要港湾の日高港のほか、新宮港など13の地方港湾があります。地方港湾の中で由良港と勝浦港については、避難港にも指定されています。

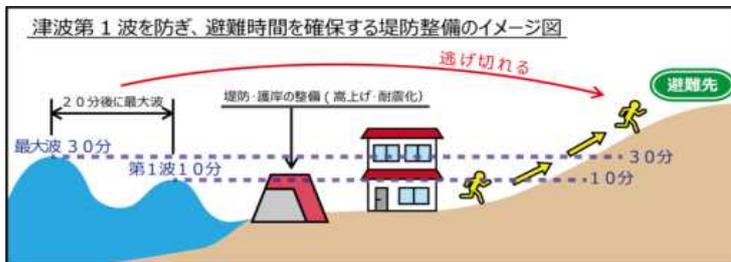
また、94の漁港(内、県管理漁港7漁港)があり、流通拠点漁港が5漁港、生産拠点漁港が15漁港があります。その中で、阿尾漁港と有田漁港については避難漁港として位置付けられています。

【津波から『逃げ切る!』支援対策プログラムの推進】

近い将来、南海トラフにおいて、大地震が発生することが見込まれており、地震発生時の重大な被害が懸念されています。県では、津波から住民の命を守るため、その対策に取り組んでいます。

○東海・東南海・南海3連動地震による津波避難困難地域解消のための対策として、堤防等の嵩上げ、耐震化等の整備を行っています。

那智勝浦海岸（那智勝浦町）



堤防等の整備による避難時間確保のイメージ



津波避難困難地域解消のための整備
(那智勝浦海岸)

○津波避難困難地域以外の地域でも、津波による被害が想定されることから、経済被害を抑え、早期の復旧・復興につなげるための対策として、防波堤等の改良、整備を行っています。

・港湾

由良港（由良町）
文里港（田辺市）
新宮港（新宮市、那智勝浦町）

・漁港

箕島漁港（有田市）、塩屋漁港（御坊市）
堺漁港（みなべ町）、田辺漁港（田辺市）
有田漁港（串本町）、串本漁港（串本町）



防波堤整備（由良港）



導流堤の整備（箕島漁港）

【漁業の早期再開復旧の推進】

被災後における漁業活動の早期再開復旧を行うための対策として、主要な岸壁の耐震化等の整備を行っています。

和歌浦漁港（和歌山市）、阿尾漁港（日高町）
印南漁港（印南町）、田辺漁港（田辺市）
周参見漁港（すさみ町）、太地漁港（太地町）



岸壁の耐震化（周参見漁港）

【高潮・高波浪対策の推進】

台風などの異常気象による、高潮・高波浪対策として、防波堤の改良や離岸堤の新設、護岸の嵩上げ等の整備を行っています。

湯浅広港（湯浅町、広川町）
日高港海岸（美浜町）、文里港海岸（田辺市）

【津波・波浪ライブカメラの設置】

津波や波浪発生時における沿岸施設の被害状況の確認や、救援物資輸送に必要な耐震強化岸壁等の使用の可否判断等を迅速に行い、初動対応の円滑化を図るため、ライブカメラの設置を行っています。



津波・波浪ライブカメラ（イメージ）

港湾の利用促進

観光産業の強化

【クルーズ客船の寄港促進】

クルーズ客船の寄港は、港だけでなく周辺地域にも経済効果を与えます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症によりクルーズ客船の運航休止が相次いだものの、官民連携の継続的な誘致活動により、2023年度には、過去最高の22隻、2024年度は13隻が和歌山県内に寄港しました。



クルーズ客船の寄港実績



出港のお見送り(岸壁上)



接岸中のノルウェー جان・スピリット

【2025年3月 和歌山下津港に寄港したノルウェー・スピリット】

【整備事業】

地域の基幹産業の競争力強化のための水域(泊地)施設の整備を進めています。

和歌山下津港(和歌山市) 泊地の整備

【RORO船の定期就航】

RORO船とは、トラックやシャーシ(荷台)の車両をそのまま船に積み込んで輸送する貨物船です。労働時間規制による運転手不足への対応、CO2排出削減の課題解決に資する輸送手段として期待されています。

和歌山下津港には、2022年10月から毎週土曜日に千葉港へ向かう定期RORO船が就航しています。



RORO船
(和歌山下津港)

熊野白浜リゾート空港(南紀白浜空港)の利用促進

観光産業の強化

南紀白浜空港は、和歌山県の空の玄関口として、1968年に開港しました。民間の能力を活用した効率的なサービスを提供できるよう、2019年4月から(株)南紀白浜エアポートが運営しています。2024年1月には「熊野白浜リゾート空港」と愛称を設定し、国内外から数多くの利用客が訪れるよう、誘客促進を図っています。

【空港の利用促進】

熊野白浜リゾート⇄東京羽田線は、朝、昼、夕方の3往復(6便)を定期運航しています。2024年度の利用者数は235,543人となり、過去最高を記録しました。また、2023年以降、新しく完成した国際線ターミナルビルを活用して、ベトナムや韓国からの国際チャーター便の運航を誘致しました。

今後も空港のアクセス改善や、空港愛称のPR、国内定期便の増便に向けた需要喚起、国際線誘致等により、空港の利用促進を図ります。

また、航空機の大型化等に対応し、海外、首都圏等からの更なる観光客等の誘致を図るため、滑走路延伸(2,000m→2,500m)に向けた調査、分析を行います。



国際線ターミナルビル



国際チャーター便の受入
(大韓航空の就航 2025年1月)

5. 事業推進のための取組

【事業推進のための取組】

○新公共調達制度

「公共工事の品質の確保」、「建設業界の健全な発展」に資するよう取り組んでいます。

○建設業における働き方改革

工事の施工時期の平準化や、原則、全ての県土整備部発注工事における週休2日工事の実施、ICTを活用した生産性向上など、建設業における働き方改革に取り組んでいます。

○安全衛生関連の取組

各発注機関と労働基準監督署等関係機関との合同安全パトロールを実施し、県発注工事の建設現場の安全確認を行っています。

また、建設工事における事故防止の観点から、競争力強化セミナー等において、事故発生状況及び事故防止策等の取組を紹介しています。

【地籍調査の推進】

南海トラフ地震や激甚化・頻発化する豪雨災害に備え、被災後の迅速な復旧・復興のためにも、土地の権利関係を明確にした現地復元性のある地図の整備を進めることができる地籍調査に、市町村とともに取り組んでいます。

6. 建設業の現状と担い手確保の取組

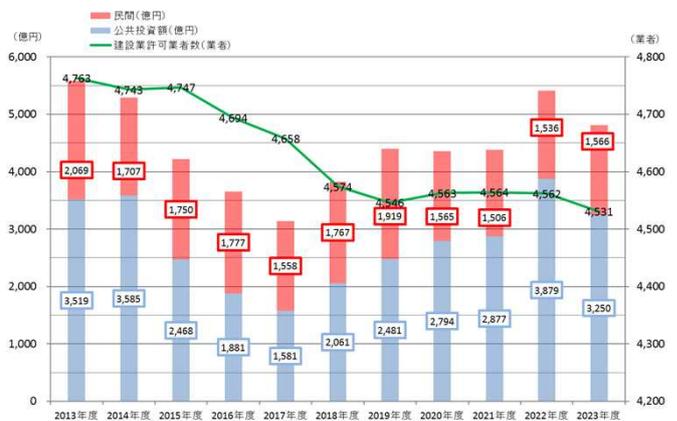
【和歌山県内の建設業界の動向について】

○県内の建設投資額の推移

2014年度以降、建設投資額（公共）は減少傾向にありましたが、2018年度から「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」等の予算が措置されたことにより増加に転じており、近年は高い水準で推移しています。

○建設業許可業者数の推移

2016年度以降、建設業許可業者数は減少傾向にありましたが、2019年度以降は横ばいで推移しています。これは、前述の国土強靱化にかかる予算措置等により、建設投資額が増加傾向となったことが要因の一つと推測されます。



和歌山県内の建設投資額（民間・公共）、建設業許可業者数の推移

【担い手確保の取組】

建設業における処遇改善や生産性向上の取組を制度面から誘導するとともに、魅力発信事業に取り組む団体に対し、費用の一部を補助するなど、担い手の確保に取り組んでいます。

7. 生産性向上などの取組

【県土整備データ共有プラットフォーム】

施設管理に必要な各種情報をデジタル化し、和歌山県地理情報システム上で位置情報に紐づけて一元管理する「県土整備データ共有プラットフォーム」の運用を2022年2月から開始しました。

プラットフォームにおいて、オンラインによる電子成果品の登録や工事の施工等に必要となるデータを共有することにより、受発注者間の事務の効率化に取り組んでいます。

【ICT活用工事の普及及び情報共有システムの活用促進】

建設現場における生産性向上のためのICT活用工事の普及や受発注者間で書類等を交換・共有する情報共有システム（ASP）などの活用により、建設業の生産性向上に取り組んでいます。

【建築行政のシステム基盤整備】

県内の各事務所が保管している管内の建築計画概要書（紙）をデータ化して、検索閲覧できるシステムを整備します。各窓口の端末で当システムを利用することにより、県内全域の概要書を検索（閲覧等）可能となります。

また道路種別地図（紙）を地理情報データ化してWEB上で広く公開し、いつでも、どこからでも閲覧できるようにすることで、県民等の利便性の向上を図ります。



【画像解析技術を利用した流量観測】

河川監視カメラ画像で河川流量を自動的、連続的に観測することで、安全かつ正確な流量を把握することができます。



波紋や浮遊物等の動きから流量を算出

Ⅲ. 卷末資料

1. 県土の主な出来事

1946年度 (昭和21年)	南海道地震死者行方不明269名	1975年度 (昭和50年)	県道かつらぎ高野線 梨木峠改良工事完成 県道市鹿野朝来停車場線 卒塔婆トンネル開通 広川ダム完成
1948年度 (昭和23年)	和歌山港が和歌山下津港となり、開港場に指定	1976年度 (昭和51年)	国道170号(現国道371号)橋本バイパス開通 由良港網代高潮ポンプ場完成 由良港海岸高潮対策完成
1953年度 (昭和28年)	梅雨前線豪雨(7月17日～18日) 死者615人、行方不明431人、家屋の全壊流出8,682戸、被災者総数250,000人	1978年度 (昭和53年)	和歌川ポンプ10m ³ /s完成
1956年度 (昭和31年)	七川ダム完成	1979年度 (昭和54年)	新川(上富田町)新隧道完成 新宮港港湾整備(第1期)事業完成 文里港排水事業完成
1959年度 (昭和34年)	伊勢湾台風来襲、死者行方不明18名	1980年度 (昭和55年)	高野龍神スカイライン開通 紀の川流域下水道(伊都処理区)事業着手 河西公園完成 和歌山下津港片男波海水浴場オープン
1960年度 (昭和35年)	高野山有料道路開通 和歌山下津港港湾計画(新規)承認	1981年度 (昭和56年)	湯浅広港排水機場完成
1961年度 (昭和36年)	第二室戸台風来襲、死者行方不明16名	1982年度 (昭和57年)	田辺十津川線 上秋津川バイパス完成 紀三井寺ポンプ10m ³ /s完成
1962年度 (昭和37年)	和歌山下津港青岸埋立整備事業完成	1983年度 (昭和58年)	海南湯浅道路開通 国道42号 有田バイパス 有田大橋開通 和歌山下津港万吨埠頭第3、第4、第5バース完成
1963年度 (昭和38年)	白浜有料道路開通	1984年度 (昭和59年)	和歌山下津港中国青島港と友好港提携締結 和歌山下津港北港魚釣り公園オープン
1964年度 (昭和39年)	宇治浄化ポンプ8m ³ /s完成	1985年度 (昭和60年)	国道42号 田辺バイパス開通 杭ノ瀬ポンプ6m ³ /s完成 「関西国際空港関連施設整備大綱」閣議決定 和歌山下津港黒江排水機場完成
1965年度 (昭和40年)	和歌山下津港が特定重要港湾に指定 宇久井港埋立整備事業完成	1986年度 (昭和61年)	市田川排水機場及び水門完成 和歌山下津港青岸橋完成
1966年度 (昭和41年)	県道粉河加太線完成 海南港埋立整備事業完成	1987年度 (昭和62年)	国道24号 岩出バイパス全線開通 国道311号 朝来バイパス開通 河西緩衝緑地オープン
1967年度 (昭和42年)	国道26号バイパス 紀の川大橋開通 二川ダム完成 和歌山南港(木材港)埋立整備事業完成	1988年度 (昭和63年)	県道泉佐野打田線開通 中小高橋川完成
1968年度 (昭和43年)	潮岬有料道路開通 国道42号 全線一次改築完成 南紀白浜空港開港、滑走路1,200m供用開始、東京-白浜間に定期航路開設	1989年度 (平成元年)	椿山ダム完成 和歌川高潮ポンプ15m ³ /s完成 新宮港関税法上の開港指定 和歌山マリーナシティ株式会社(第3セクター)設立
1971年度 (昭和46年)	第26回全国国民体育大会開催 国道168号 高田口トンネル・吊鐘トンネル開通 県道新和歌浦線 新和歌浦トンネル開通 和歌山・海南両市に市街化区域と市街化調整区域設定 紀三井寺運動公園 整備完了 和歌山下津港万吨埠頭第1バース完成	1991年度 (平成3年)	和歌山下津港片男波地区第2期計画完成
1972年度 (昭和47年)	県道路公社を設立	1992年度 (平成4年)	紀ノ川河口大橋(みなと大橋)開通 小規模池野山川完成 和歌山下津港毛見地区埋立整備事業第一工区竣工
1973年度 (昭和48年)	都市計画法に基づく新用途地域決定		
1974年度 (昭和49年)	阪和自動車道 海南～阪南開通 県道本宮古座川線一部開通 河西県民プール 完成 和歌山下津港万吨埠頭第2バース完成		

1993年度 (平成5年)	<p>国道24号 和歌山バイパス全線供用開始 堺～岸和田和泉開通により阪和自動車道全線開通 紀淡連絡道路 現地調査開始(建設省、兵庫県、和歌山県) 林道水上橋谷線開通 紀の川大堰本体工事着工 国際津波シンポジウム開催</p>
1994年度 (平成6年)	<p>和歌山マリーナシティで世界リゾート博開催(7月16日～9月25日) 湯浅御坊道路 吉備IC～広川IC開通 国道42号 田辺バイパス暫定開通 国道424号 美山・金屋バイパス 白馬トンネル開通 広域農道 紀の川地区全線開通 5月29日を紀の国川の日に制定 国際砂防シンポジウム開催(世界リゾート博) 和歌山下津港毛見地区埋立整備事業第二工区竣工 和歌山下津港雑賀崎地区埋立整備事業第一工区竣工</p>
1995年度 (平成7年)	<p>阪神・淡路大震災発生 湯浅御坊道路 広川IC～御坊IC開通 南部川 ふるさとの川整備計画認定 災害関連緊急地すべり対策事業 竣工式(金屋町西ヶ峰・沼田地区) 毛原宮地区(紀見野町) 特定利用斜面保全事業完成 和歌山下津港一釜山港定期コンテナ航路開設 南紀白浜空港(新空港)滑走路1,800m供用開始</p>
1996年度 (平成8年)	<p>砂防ボランティア和歌山県協会設立(都道府県では全国初) 国道169号 奥瀬道路(1期)工事完成 国道42号 日置川道路全線開通 広域農道 南紀地区全線開通 本宮町特定環境保全公共下水道 川湯処理区供用開始(県代行)</p>
1997年度 (平成9年)	<p>県道龍神中辺路線開通 広域農道 日高地区全線開通</p>
1998年度 (平成10年)	<p>和歌山県公共事業再評価委員会設置 那智勝浦道路起工式 京奈和自動車道 橋本道路起工式 近畿自動車道紀勢線 御坊～南部起工式 国道311号 本宮町～上富田町開通 新宮川から熊野川へ名称変更 日高港港湾整備(第1期)事業着手</p>
1999年度 (平成11年)	<p>南紀熊野体験博開催(4月29日～9月19日) 県道経野串本線 くしもと大橋開通 和歌山下津港内港地区排水機場完成 河川審議会設立 権の浦地区(那智勝浦町)特定利用斜面保全事業完成 土木防災情報システム(河川・砂防情報システム)、土石流警戒システム運用開始 県立橋本体育館完成</p>
2000年度 (平成12年)	<p>国道424号 金屋バイパス全線開通 県道市鹿野鮎川線 新深谷トンネル開通 県道井関御坊線 新鹿ヶ瀬トンネル開通 県道上富田すさみ線 生馬橋開通 猪谷川水辺公園(ふるさと砂防事業)完成(美山村) 南紀白浜空港(新空港)滑走路2,000m供用開始</p>

2001年度 (平成13年)	<p>県道田辺印南線 新鶴の湯バイパス開通 県道泉佐野岩出線 森バイパス開通 湊神前線 宮前跨線橋供用開始 伊都浄化センター通水 田口川砂防公園(吉備町)完成 和歌山下津港和歌山本港区-13m岸壁(ガントリークレーン)供用開始</p>
2002年度 (平成14年)	<p>不動谷川(高野町)通常砂防事業完成 小長井地区(太地町)特定利用斜面保全事業完成 龍神温泉浄化センター通水(県代行) 長距離フェリー航路(川崎～那智勝浦～宮崎)の開設(株式会社マリンエクスプレス)</p>
2003年度 (平成15年)	<p>阪和自動車道 御坊IC～みなべIC開通 国道26号 和歌山北バイパス開通 国道425号 小家谷拡幅開通 国道371号 相瀬～立合バイパス開通 国道371号 高野龍神スカイライン無料開放 北山村道市老谷線 不動トンネル開通 有田川洪水予報開始</p>
2004年度 (平成16年)	<p>湯浅御坊道路 広川南IC完成 都市計画道路 西脇山口線 平井工区開通 県道すさみ古座線 曲利バイパス開通 県道花園美里線 花園美里トンネル開通 ふるさと林道 小匠小森川線全線開通 ふるさと農道 竜門地区開通 日高川洪水予報開始 日高港(塩屋地区)供用開始</p>
2005年度 (平成17年)	<p>海南湯浅道路 近畿自動車道紀勢線へ編入 国道168号 七色高架橋・土屋トンネル開通 国道480号 須谷バイパス開通 国道168号 熊野川本宮道路開通 湊神前線西開通 農免道路塩屋地区 全線開通 極楽谷川(高野町)通常砂防事業完成 河西緩衝緑地東松江緑地完成</p>
2006年度 (平成18年)	<p>京奈和自動車道 橋本道路 橋本IC～高野口IC・橋本東IC～県境開通 国道480号 平道路 東谷～萩原開通 国道371号 橋本高野橋開通 国道371号 橋本バイパス 東家～市脇開通 国道480号 三田バイパス開通 国道370号 美里バイパス 福田～野中開通 国道480号 梨子ノ木バイパス 志賀高野山トンネル開通</p>
2007年度 (平成19年)	<p>京奈和自動車道 橋本道路 橋本東IC～橋本IC開通 那智勝浦新宮道路 新宮～那智勝浦IC開通 阪和自動車道 みなべIC～南紀田辺IC開通 国道371号 中南バイパス開通 国道425号 大峠拡幅開通 町道 紀州サン・リゾートライン開通(県代行) 土砂災害警戒情報開始 県庁舎南別館完成・移転 新宮港Ⅱ期埋立工区供用開始</p>
2008年度 (平成20年)	<p>都市計画道路 西脇山口線 坂田工区開通 国道169号 奥瀬道路開通 国道169号 宮井バイパス開通 国道168号 越路道路開通 泉佐野岩出線 新風吹トンネル(上り)開通 志原地区(白浜町)特定利用斜面保全事業完成 那智浄化センター通水 文里港 -5.5m岸壁 供用開始</p>
2009年度 (平成21年)	<p>阪和自動車道 和歌山北IC開通 京奈和自動車道 紀北西道路起工式 都市計画道路 西脇山口線 善明寺工区開通 国道371号 温川バイパス全線開通 国道424号 修理川バイパス全線開通 国道480号 平道路全線開通 県道泉佐野岩出線 国道24～府県境全4車線開通 県道芳養清川線 中芳養工区開通 元町新庄線 海蔵寺工区開通 和歌山下津港海南地区津波対策事業着手</p>

2010年度 (平成22年)	<p>国道371号 橋本バイパス 柱本～慶賀野開通 国道370号 重根拡幅一部開通 国道425号 王子川谷拡幅全線開通 阪和自動車道 海南IC～有田IC下り2車線完成 国道425号 切目川バイパス 高串～田ノ垣内開通 国道424号 福井バイパス全線開通 国道371号 蔵土バイパス全線開通 国道424号 南部川谷拡幅全線開通 雨量・河川水位等のデータ放送開始 (NHK・テレビ和歌山) 古座川洪水予報開始 和歌山下津港臨港道路 紀の川右岸線供用</p>
2011年度 (平成23年)	<p>台風12号(8月30日～9月5日) 死者56名、行方不明5名(紀伊半島大水害) 阪和自動車道 海南IC～有田IC4車線化完成 県道あけぼの広角線 全線開通 県道御坊由良線 小引工区開通 県道西川原粉河線 全線開通 紀の川大堰建設事業完了 湯浅広港津波防波堤完成</p>
2012年度 (平成24年)	<p>京奈和自動車道 紀北東道路 高野口IC～紀北かつらぎIC開通 町道 大谷連絡線全線開通(県代行) 国道168号 日足道路 日足～能城山本開通 国道424号 滝頭拡幅全線開通 国道370号 美里バイパス全線開通 国道370号 毛原工区全線開通 国道480号 岩野河バイパス全線開通 国道168号 本宮道路全線開通 大滝ダム完成 串本地区(串本町)特定利用斜面保全事業完成</p>
2013年度 (平成25年)	<p>京奈和自動車道 紀北東道路 紀北かつらぎIC ～紀の川IC開通 国道425号 切目川バイパス全線開通 国道42号 田辺西バイパス 稲荷町～芳養町開通 国道168号 日足道路全線開通 熊野川(日足、本宮)洪水予報開始 秋葉山公園県民水泳場供用</p>
2014年度 (平成26年)	<p>国道371号 橋本バイパス 東家～三石台開通 (一部暫定2車線) 国道371号 高野山道路全線開通 国道370号 重根拡幅全線開通 県道有田湯浅線 田～栖原工区開通 県道粉河加太線 直川工区開通 県道三田三葛線 和田工区開通 県道和歌山橋本線 西洪田～東洪田工区開通 伏兔野地区特定緊急地すべり対策事業完成 新宮港緑地竣工</p>
2015年度 (平成27年)	<p>紀の国わかやま国体・大会開催(9月26日～10月26日) 紀勢自動車道 南紀田辺IC～南紀白浜IC開通 紀勢自動車道 南紀白浜IC～すさみ南IC開通 京奈和自動車道 紀北西道路 紀の川IC～岩出根IC開通 県道と歌山橋本線 和田工区、遠方工区開通 県道那智勝浦古座川線 山手～中山崎工区開通 国道370号 小畑～動木工区開通 国道26号 第二阪和国道 平井ランプ～大谷ランプ開通 国道169号 奥漕道路(Ⅱ期)開通 那智勝浦新宮道路(那智勝浦IC～市屋)開通 国道424号 清川工区部分供用 県道白浜温泉線 白浜～富田工区部分開通 県道御坊湯浅線 衣奈～門前工区開通 切目川ダム完成</p>

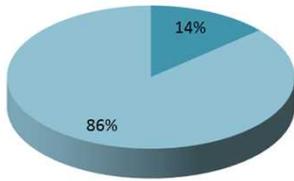
2016年度 (平成28年)	<p>京奈和自動車道 紀北西道路 岩出根IC～和歌山JCT開通 国道424号 木津バイパス開通 和歌山県土砂災害啓発センター完成</p>
2017年度 (平成29年)	<p>都市計画道路西脇山口線 田屋工区開通 国道26号 第二阪和国道 淡輪ランプ～平井ランプ開通 国道480号 鍋谷峠道路開通 国道424号 清川工区全線開通 国道370号 美里3バイパス部分供用 国道371号 龍神殿原工区開通 県道芳養清川線 中芳養工区・面谷トンネル開通</p>
2018年度 (平成30年)	<p>阪和自動車道 和歌山南スマートIC開通 都市計画道路北島湊線 北島橋～紀ノ川大橋開通 県道白浜温泉線 才野ランプ～空港東交差点開通 県道と歌山打田線 岩出橋新橋供用 県道と歌山橋本線 和田～吉礼開通 県道三田海南線 和田～冬野開通</p>
2019年度 (令和元年)	<p>都市計画道路西脇山口線 川永工区暫定開通 国道370号 阪井バイパス開通 県道那賀かつらぎ線 笠田中開通 県道岩出野上線 諸井橋新橋供用 県道垣内貴志川線 愛宕橋新橋供用 県道山内恋野線 恋野橋新橋供用 南紀白浜空港の(南紀白浜エアポート)による民間運営開始</p>
2020年度 (令和2年)	<p>国道425号 川又工区全線開通 紀の川岩出狹窄部対策事業完了</p>
2021年度 (令和3年)	<p>近畿自動車道紀勢線 有田IC～印南IC4車線化完成 都市計画道路 西脇山口線全線開通 国道424号 青田工区全線開通 国道42号 冷水拡幅 海南市冷水～藤白間開通 国道42号 田辺西バイパス全線開通 広域農道 紀の川左岸地区全線開通 新宮川水系河川整備基本方針変更 新宮川水系(熊野川)河川整備計画策定</p>
2022年度 (令和4年)	<p>都市計画道路 南港山東線全線開通 国道42号 有田海南道路 有田市野～新空間開通 国道370号 美里2バイパス全線開通 国道370号 美里4工区国吉毛原トンネル開通 広域農道 紀の里地区全線開通</p>
2023年度 (令和5年)	<p>梅雨前線による大雨及び台風第2号(6月2日～3日)。死者2名、行方不明1名 国道424号 切目辻トンネル開通 県道すさみ古座線 周参見～小河内開通 気候変動を踏まえた河川整備計画策定(周参見川水系、印南川水系) 気候変動を踏まえた河川整備基本方針策定(山田川水系) 南紀白浜空港の国際線ターミナルビルを活用した国際チャーター便の受け入れ開始 南紀白浜空港の愛称を「熊野白浜リゾート空港」に決定</p>
2024年度 (令和6年)	<p>国道371号 石仏バイパス、天見紀見トンネル開通 県道紀伊停車場田井ノ瀬線 新南田井ノ瀬橋開通 国道42号 新宮紀宝道路開通 日高川水系西川を特定都市河川に指定 和歌山下津港 港湾計画改定</p>

2. 県土整備部の予算

【令和7年度当初予算（一般会計）】

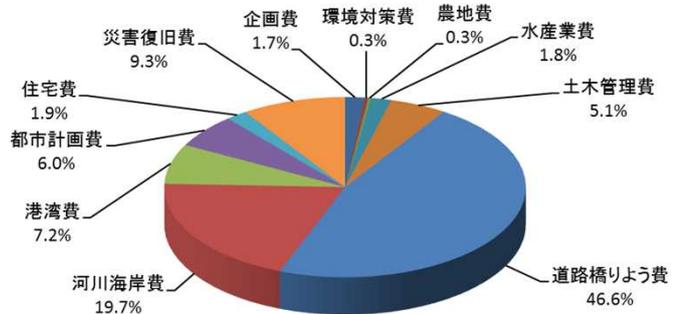
和歌山県の令和7年度当初における県土整備部予算は83,622百万円で、これは県全体歳出予算613,813百万円の約14%を占めています。

県土整備部予算のシェア



■ 県土整備部予算 ■ 他部の予算

予算科目別構成比（一般会計）



【予算の推移】

● 総予算額

(単位: 千円)

予算科目	R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度
	当初	2月現計	当初	2月現計	当初	2月現計	当初	2月現計	当初
一般会計	85,565,025	113,201,154	84,241,773	115,030,304	84,859,185	133,323,952	90,548,080	109,611,410	83,622,478
企画費	1,962,714	2,025,747	1,312,558	1,555,518	1,389,460	1,552,904	1,470,873	1,409,890	1,461,464
環境対策費	325,957	326,711	306,482	306,482	306,842	306,842	278,887	278,887	260,841
農地費	1,527,759	1,505,170	911,487	1,013,337	56,625	19,636	42,000	39,795	21,000
林業費	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水産業費	1,602,894	2,599,896	1,642,341	3,001,387	1,580,110	3,336,404	1,452,883	2,729,619	1,527,881
土木管理費	4,171,076	4,010,285	3,987,074	3,934,373	3,953,555	3,326,526	3,917,718	4,087,704	4,243,325
道路橋りよう費	40,005,098	58,577,859	42,339,703	60,141,417	43,643,906	61,549,943	43,867,465	51,409,784	39,004,471
河川海岸費	16,166,978	27,852,571	16,064,299	27,954,679	16,133,379	32,846,789	16,021,090	29,388,431	16,492,451
港湾費	5,932,228	7,882,569	5,747,207	9,392,891	5,291,094	9,585,722	5,677,098	6,418,839	5,980,419
都市計画費	4,406,499	4,745,477	4,684,866	5,919,788	4,660,900	5,381,445	4,706,826	5,054,619	5,048,930
住宅費	1,382,210	1,277,654	1,301,611	1,313,611	1,887,284	1,887,284	1,680,073	1,352,663	1,607,296
災害復旧費	8,081,612	2,397,215	5,944,145	496,821	5,956,030	13,530,457	11,433,167	5,460,595	7,785,400
特別会計	9,107,816	8,228,810	7,704,415	7,332,043	7,379,417	5,924,443	5,924,443	5,577,349	6,680,836
港湾施設管理事業	509,824	582,172	507,975	555,702	511,216	619,056	528,309	655,075	693,701
用地取得事業	4,820,730	3,675,662	3,306,999	2,940,872	2,739,895	1,309,358	1,682,670	1,029,241	1,563,767
流域下水道事業	3,777,262	3,970,976	3,889,441	3,835,469	4,128,306	3,996,029	4,207,860	3,893,033	4,423,368
合計	94,672,841	121,429,964	91,946,188	122,362,347	92,238,602	139,248,395	96,966,919	115,188,759	90,303,314

● 投資的事業費及び維持修繕事業費（一般会計）

(単位: 千円)

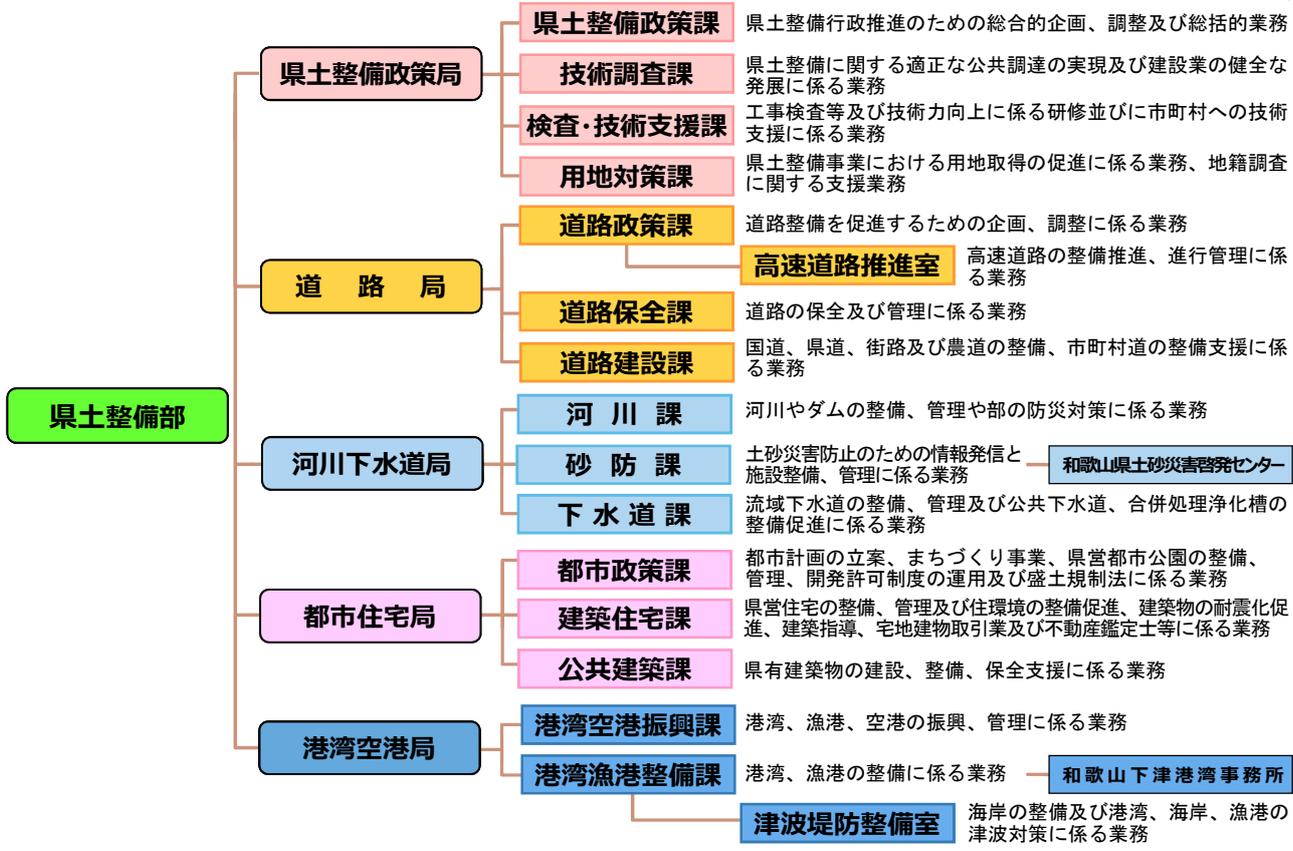
項目	R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度
	当初	2月現計	当初	2月現計	当初	2月現計	当初	2月現計	当初
補助事業	43,217,965	76,182,875	43,025,672	81,478,514	43,423,412	81,606,216	43,531,212	67,402,556	44,432,265
用地対策課	1,955,714	2,019,747	1,305,558	1,549,518	1,389,460	1,552,904	1,470,873	1,409,890	1,461,464
道路政策課	-	-	16,105	16,105	29,135	18,899	10,746	7,869	14,074
道路保全課	5,317,239	13,481,303	5,803,220	13,002,836	5,683,383	14,056,063	10,284,454	12,687,903	10,137,192
道路建設課	20,028,992	30,210,196	20,514,585	34,031,085	20,564,303	29,223,908	15,727,202	19,952,463	16,000,798
河川課	4,954,619	11,004,198	5,029,484	11,852,491	4,847,120	13,461,624	4,873,398	11,359,617	4,796,253
砂防課	4,991,544	9,673,152	4,972,930	9,443,117	4,972,689	11,028,721	4,971,303	11,389,222	5,632,005
下水道課	92,509	65,954	66,187	62,811	65,125	24,934	8,500	4,886	8,500
都市政策課	817,119	815,496	327,961	509,223	308,376	293,006	622,791	897,305	590,227
建築住宅課	900,837	849,278	829,921	824,914	1,295,771	1,269,661	1,058,041	710,473	1,009,059
港湾空港振興課	316,700	316,700	306,600	306,600	541,200	560,075	696,450	696,450	769,800
港湾漁港整備課	3,842,692	7,746,851	3,853,121	9,879,814	3,726,850	10,116,421	3,807,454	8,286,478	4,102,893
単独事業	15,167,744	15,158,172	14,322,506	14,179,852	14,460,786	16,243,507	14,254,792	14,232,191	13,948,528
県土整備政策課	-	-	-	-	-	-	-	-	-
技術調査課	237,959	205,107	243,384	238,848	214,928	220,081	227,697	227,697	225,998
検査・技術支援課	-	-	-	-	-	-	-	-	-
用地対策課	114,627	114,627	115,568	115,568	96,299	96,299	99,098	99,908	28,910
道路政策課	120,000	120,000	66,000	66,000	88,000	88,000	88,000	88,000	153,000
道路保全課	4,553,673	4,441,357	4,608,408	4,439,855	4,772,946	4,801,099	4,764,952	4,693,181	5,172,468
道路建設課	4,178,655	4,178,655	3,702,531	3,702,531	3,725,606	3,814,945	3,524,058	3,481,058	2,963,130
河川課	3,170,576	3,223,647	2,994,308	3,052,545	2,992,074	3,475,122	2,991,073	2,987,573	3,003,019
砂防課	615,581	688,981	686,084	644,761	904,430	2,076,349	869,369	890,729	873,360
下水道課	382,852	382,852	356,870	356,870	364,502	364,502	323,166	323,166	314,169
都市政策課	315,047	339,576	389,469	399,469	289,370	314,760	275,684	293,259	57,038
建築住宅課	316,988	311,668	277,950	287,631	293,748	262,457	382,948	473,903	412,899
港湾空港振興課	487,165	510,401	145,683	154,223	87,364	111,954	148,922	164,702	164,401
港湾漁港整備課	674,621	641,301	736,251	721,551	631,519	617,939	559,825	509,825	580,136
国直轄事業負担金	11,555,737	12,094,718	13,483,391	11,635,827	13,337,487	14,795,477	13,673,020	14,972,172	9,038,264
小計	69,941,446	103,435,765	70,831,569	107,294,193	71,221,685	112,645,200	71,459,024	96,606,919	67,419,057
災害復旧事業	8,081,612	2,397,215	5,944,145	496,821	5,956,030	13,530,457	11,433,167	5,460,595	7,785,400
合計	78,023,058	105,832,980	76,775,714	107,791,014	77,177,715	126,175,657	82,892,191	102,067,514	75,204,457

※一般会計の総予算額から職員費等消費的経費を控除し、事業所管課毎に整理

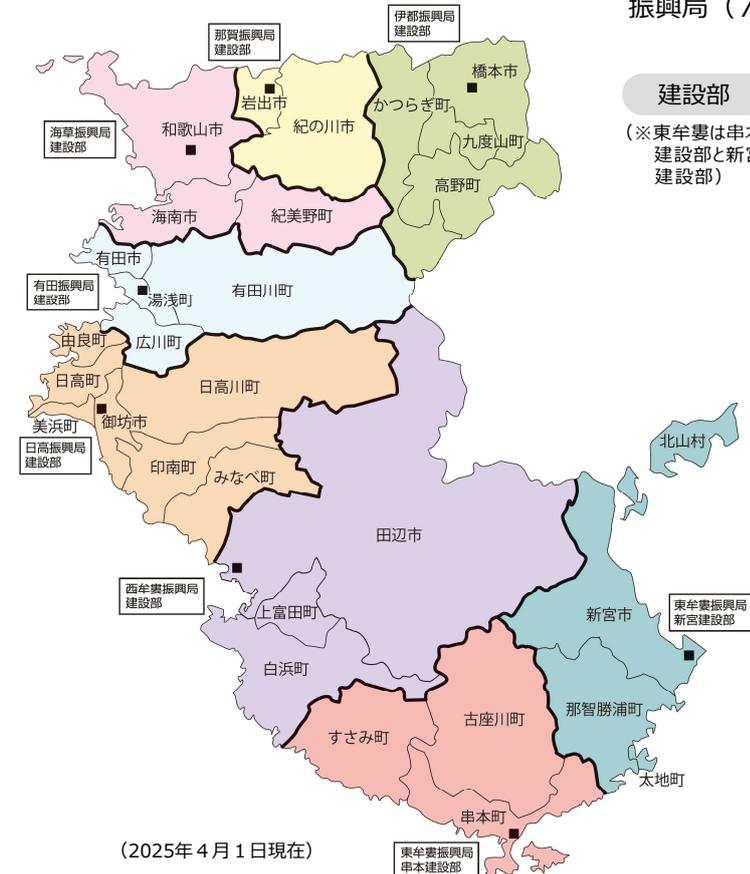
3. 県土整備部の組織

○県土整備部組織機構図及び主な業務

(2025年4月1日現在)

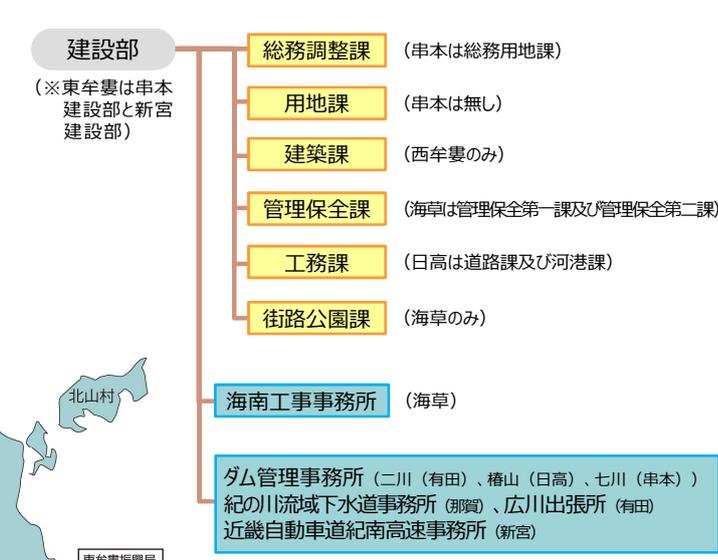


○振興局建設部所在図及び所管区域図



○振興局建設部の組織図

振興局（7）（海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁）



和歌山県提供の洪水、災害関連情報

河川雨量情報

<https://kasensabo01.pref.wakayama.lg.jp/mainMap.html>

土砂災害警戒情報

<https://kasensabo01.pref.wakayama.lg.jp/mainDoshaMap.html>

スマートフォン以外の方はこちら
(河川雨量・土砂災害警戒情報)

<http://kasensabo01.pref.wakayama.lg.jp/keitai/>

土砂災害警戒区域等

<https://sabomap.pref.wakayama.jp/>

2025年度 和歌山県県土整備の概要

制作：和歌山県県土整備部

〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地
電話 073-432-4111 (代)

2025年6月